

■わが市・わが町・わが村

新しい時代を紡ぐ水と文化と心のまち きそがわ



■木曾川町 K I S O G A W A

木曾川町は愛知県の西北端、木曾川が西流から南流へと方向を変えるところにあり、西は木曾川を隔てて岐阜県に接し、他の3方を一宮市に囲まれています。面積は、東西4.2km、南北2.2kmで総面積9.51km²、人口3万2千人で、明治43年に木曾川町と定め今に至っています。

本町は町の中央をJR東海道本線、名鉄名古屋本線が南北に貫き、西端には名鉄尾西線が走っています。また、国道22号線名岐バイパス、県道6路線が町内を縦横に走り、東端には東海北陸道「一宮木曾川インターチェンジ」、名神高速道路「一宮インターチェンジ」まで12kmという近距離で、時代とともに交通環境は広域化しています。



玉堂生誕碑



一豊まつり

本町は繊維関係にまつわる工業で発展してきました。この貴重なまちの財産を次代へと継承するため地場産業の育成に力を注ぐとともに、利便性に富んだ交通環境のもとで、次代の変化を見据え新しい産業の発展を目指しています。繊維産業においては、企業立地を促進させる基盤整備を進め、隣接する一宮市に立地する繊維地場産業の中核施設「一宮ファッションデザインセンター」、「繊維技術センター」などの施設利用を図りながら、新製品の開発やデザイン開発を積極的に進めています。

本町の史跡の中には、山内但馬守盛豊・十郎父子の墓、元黒田城主の澤井公屋敷跡、黒田城跡等があります。また、日本の伝統的画派を基礎に持ちつつも、自然のありのままの姿を写生し続け、詩情感あふれる風景画を描き続けた近代日本画の巨匠川合玉堂の生誕地でもあり、現在記念碑が建てられています。戦国の武将山内一豊・妻、お千代の内助の功の逸話は今なお語り継がれるほど有名ですが、本町では毎年8月の第1日曜日には山内一豊・お千代を顕彰するイベント「一豊まつり」を開催し、この町一番の盛り上がりを見せています。

木曾川町のホームページ <http://www.town.kisogawa.aichi.jp/profile4.html>